

平成19年7月5日  
 企画部地域計画課  
 担当：田所，菊池（内線 2735）

**アーカスプロジェクト2007いばらき  
 アーティスト・イン・レジデンス招聘アーティスト決定について**

茨城県では県民の皆様にアーティストとの交流や新しい芸術体験の機会を提供することを通じて、魅力ある地域づくりを推進する「アーカスプロジェクト」を実施しています。

本プロジェクトの核となる「アーティスト・イン・レジデンス」（若手芸術家の創作支援事業）には、過去最多の60カ国・地域から304名の若手現代アーティストの応募があり、選考の結果、下記のとおりインド、台湾、アメリカ、フランス、日本から5人のアーティストを招聘することが決まりました。

5人のアーティストは、8月～12月まで、茨城県守谷市にある生涯学習施設「もりや学びの里」内の「アーカススタジオ」を拠点に、それぞれ創作活動を展開します。

また、「アートと地域を繋ぐ交流事業」として、日比野克彦氏によるワークショップなどを開催いたしますが、今年度より、交流事業の開催につきましては、取手市の芸術プロジェクト「取手アートプロジェクト（TAP）」と連携を図りながら実施していく予定です。

アーカスプロジェクトと取手アートプロジェクトとが連携を深めることにより、県南地域の魅力を一層高め、芸術を通じた地域づくりの姿を生み出し、日本を代表する「芸術による地域づくり」の発信を目指します。

記

**1 応募状況**

60カ国・地域 304名（前年度実績 51カ国・地域 281名）

**2 アーティスト・イン・レジデンス 2007 年度招聘アーティスト**

国名	アーティスト名	性別	年齢	ジャンル	招聘予定期間（月数）
インド	スリニヴァサ＝プラサード・ バンガロール Srinivasa Prasad BANGALORE	男	32	インスタレーション、 立体、 パフォーマンス	19年8月30日 ～12月12日 (約4か月)
台湾	李 思慧（リ・スーフイ） LEE Szu-Hui	女	27	インスタレーション、 立体	19年8月27日 ～12月21日 (約4か月)
アメリカ	デビー・ハン Debbie HAN	女	38	インスタレーション、 立体、写真	19年10月20日 ～12月13日 (約2か月)
フランス	ドナルド・アバド Donald ABAD	男	28	パフォーマンス、 映像、 インスタレーション	19年8月28日 ～12月21日 (約4か月)
日本	椎名 勇仁 Takehito SHIINA	男	33	立体、 インスタレーション、 映像	19年8月29日 ～12月21日 (約4か月)

平成18年度の招聘数（アメリカ、台湾、タイ、インド、日本：男1名、女4名計5名）

## 2 「アークスプロジェクト2007いばらき」活動予定

2007年度のアークスプロジェクトでは、以下のような各種プログラムを実施する予定です。TAPとの連携事業など、詳細につきましては、決定次第ご案内させていただきます。

### (1) アーティスト・イン・レジデンス

- ・5名の芸術家がアークススタジオを拠点に創作活動を展開。
- ・滞在中の創作活動の成果発表「オープンスタジオ」を11/24～12/2開催予定。

### (2) アートと地域を繋ぐ交流事業

#### ワークショップ

- ・アーティストで東京芸術大学准教授の日比野克彦氏が、1999年度からアークスで実施しているワークショッププログラム。
- ・その他、招聘アーティスト等もワークショップを開催。

#### アートセミナー

- ・専門家を講師に招き、現代芸術を分かりやすく解説。現代芸術に親しみ、理解を深める機会を提供します。

#### 担い手育成プロジェクト

- ・芸術を地域住民に分かりやすく紹介し、より身近に分かりやすくすることの出来る人材等を育成する目的で、美術専門家等によるセミナーを実施します。なお、2007年度についてもアークス・フレンズを募集し、本事業やアーティスト・イン・レジデンスへの理解を深める講座も実施します。

### (参考)

#### アークスプロジェクト

1995年よりプロジェクト開始。「アークス」とは、ラテン語で「門」。国際的芸術創造の門、芸術活動の中心地「ART×FOCUS」となることを目指して命名。

現代アートの若手芸術家を招聘し、守谷市のまなびの里にある「アークススタジオ」での創作活動を支援するアーティスト・イン・レジデンス事業のほか、アートと地域を繋ぐ交流プログラムとして芸術家によるワークショップ、現代芸術の理解促進のためのセミナー及び創作支援活動やアークスのガイド役となり得る地域の人材育成などの事業を展開することにより、県民が創造力を発揮できる環境を創出し、魅力ある地域づくりと本県のイメージアップを図っている。

<http://www.arcus-project.com/>

#### 取手アートプロジェクト

1999年よりプロジェクト開始。守谷市に隣接する取手市市民、取手市及び東京芸術大学の三者が共同で行っているアートプロジェクト。若いアーティストたちの創作活動を支援し、市民に広く芸術とふれあう機会を提供することで、取手市が文化都市として発展していくことをめざす。

地元アーティストのスタジオ公開や公募展などを隔年で開催している。

2006年、日本を代表するアートを通じた地域づくりの取り組みとして「地域づくり表彰国土交通大臣賞を受賞。2007年「サントリー地域文化賞」受賞。

<http://www.toride-ap.gr.jp/>

アーティスト・イン・レジデンス 招聘アーティスト一覧

[2007年8月下旬より12月までアーカススタジオに滞在予定、滞在成果を発表するオープスタジオは11月24日～12月2日開催予定]

<p>スリニヴァサ=プラサード・バンガロール / Srinivasa Prasad BANGALORE</p> <p>1974年インド・バンガロール生まれ、同市在住。泥、木、わら、水、牛糞などの自然素材を用いた作品や、土で造った建物の内壁に死体の灰を使って模様を描くなど、生まれ育ったバンガロールの土地と文化に根ざす大型の作品を制作してきた。パフォーマンス的要素も重視され、作品の多くは観客自身が実際にその中に入り五感を通じて交感することができる。今回の滞在では、日々の変化と過去の記憶を、ターメリックや装飾品などのインドの民族的伝統の要素をもちこみながら、ロープとその結び目で綴る作品の制作を予定している。</p> <p>《KNOWN TO UNKNOWN》                  展示風景                  2006年、死体の灰                  © Srinivasa Prasad B.H.</p>	<p>インド・男性・32歳 8月30日～12月12日</p> 
<p>李 思慧(リ・スーフイ) / LEE Szu-Hui</p> <p>1980年台湾生まれ、台湾・板橋市在住。現代のグローバル化について関心があり、キューピットの人形をモチーフにしたパターンで部屋の壁面を埋め尽くすインスタレーションなどを制作。日本の歌舞伎や能などの伝統芸能や舞踊などの舞台芸術に興味をもち、守谷市滞在中は、これらの研究・調査をしたうえで日本文化の本質を見出し、自身の文化的背景に照らし合わせ、異なるジャンルやコンテキストを融合する新たな表現をみつけることをめざしている。</p> <p>《pattern series》                  展示風景                  2006年、壁紙、カンヴァス、カッティング・シート                  © LEE Szu-Hui</p>	<p>台湾・女性・27歳 8月27日～12月21日</p> 
<p>デビー・ハン / Debbie HAN</p> <p>1969年韓国生まれ、アメリカ・ロサンゼルス在住。アジア系アメリカ人として育つなかで培われた多角的な視点から、現代社会において人々の経験がいかに形づくられていくのかという関心を追求。現代におけるアジアと西洋の文化的関係を、ニンニクや食肉などの身近な食物が使われたアクセサリや服、化粧品を身につけたモデルの写真や、変形した青磁のビーナス像などの作品で表現。本レジデンスでは、最新のヘアメイクと、日本の食物を使った服や化粧品を身につける日本の一般女性をモデルにした写真シリーズの制作を企画している。</p> <p>《Terms of Beauty II》                  部分                  2005年、青磁                  © Debbie HAN</p>	<p>米国・女性・38歳 10月20日～12月13日</p> 
<p>ドナルド・アバド / Donald ABAD</p> <p>1978年フランス・パリ生まれ、同市在住。森にスピーカー、センサーなどを仕掛け、空間の一角そのものを人の動きを感知するインタラクティブな装置に変容させるなど、新しい技術と自然、身体を関係させる作品を制作。数年前の日本訪問以来、山伏や妖怪など日本独自の文化に興味を持ち、研究をつづけてきた。今回の滞在中は、日本アルプスへの入山も予定しており、自然とメディアテクノロジーとの関係についてさらに検証し、作品化する。</p> <p>《Entre Deux (between two / in between / jump ball)》                  パフォーマンス                  2006年、写真(45×30cm)                  © Donald ABAD / Cyriac ALLARD</p>	<p>フランス・男性・28歳 8月28日～12月21日</p> 
<p>椎名 勇仁 / Takehito SHIINA</p> <p>1973年岩手県生まれ、仙台市在住。ハワイのキラウエア火山など、各地の活火山に乗りこみ溶岩で陶器や魚までをも焼く「火山焼き」など、彫刻や映像作品などを通し、様々な事象を造形的観点から捉えなおす活動をつづけている。特に、それら事象と地球環境との関係性や、過去・現在・未来という要素をもつ時間との関係性などに関心を持ち、守谷市滞在中は牛久の河童伝説などの研究をもとに、映像と立体作品の制作を行う予定。</p> <p>《Wig For Robot》                  制作風景(映像)                  2004年、テラコッタにインク、溶けた溶岩他                  © Takehito Shiina</p>	<p>日本・男性・33歳 8月29日～12月21日</p> 

制作予定作品やプランについては、アーティスト・イン・レジデンスプログラムの特性上、随時変更の可能性があります。